



やまなしの 中世寺院大特集号

中世寺院ってなにだろう？

中世とは、今から約 900 年～400 年前の鎌倉・南北朝・室町・安土桃山時代頃のことを指します。それまでの仏教は貴族を中心に信仰されていましたが、鎌倉時代になると大陸から禅宗が伝えられたり、浄土宗や日蓮宗などの新しい仏教が興ったりと、武士や庶民にも広く信仰されるようになりました。

新しい仏教は県内にも広まり、多くの寺院が建てられ、活発に宗教活動がおこなわれました。

中世寺院分布調査って？

山梨県には中世の寺院が、今はもうなくなってしまったものも含めて、約 3,000 カ寺あったことがわかっています。

山梨県教育委員会では、これらの寺院を保護・活用するために、平成 16 年度から 5 カ年計画で「山梨県内中世寺院分布調査」をおこなっています。県内の中世寺院の基礎調査を実施し、重要度の高いものについて発掘調査をおこなっています。

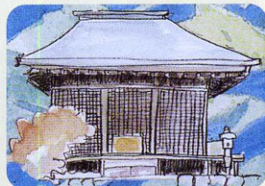
本年度は 3 年目になり、発掘調査をおこなった寺院は 7 カ寺を数えます。今回はこれらの成果を紹介していきます。



今までに発掘調査したお寺



清白寺(山梨市)



長作観音堂(北都留郡小菅村)

この時期のお寺を調べているんだよ！

10,000年前

0年

1,000年

2,007年

旧石器時代

縄文時代

弥生時代

古墳時代

奈良・平安時代

中世

近世
現代

富士登山道の起点
(甲府市右左口町七覚)

えんらくじ
円楽寺



写真左上：円楽寺旧境内を遠くからみたところ（丸印が発掘調査地点）
左下：六角堂の基壇
写真右：行者堂跡（等間隔に礎石が置かれています。）

円楽寺は、甲府市（旧東八代郡中道町）右左口町にある真言宗の寺院です。この寺を開いた役行者は修験道の祖といわれ、この寺を起点として上九一色郷を通り、富士登山道を初めて開いたと伝えられます。

一方円楽寺は、中世後半から近世（今から600～150年程前）にかけてさかんにおこなわれた六十六部廻国の納経所でもありました。六十六部廻国とは、一国一か所の霊場にお経を一部ずつ納める信仰です。山梨県の霊場は円楽寺だったのですね。

平成17年度には円楽寺の前面にある日陰山で、発掘調査をおこないました。ここは円楽寺の旧境内地でした。調査では、かつて役行者像が納められていた行者堂跡と納経所である六角堂跡が姿をあらわしました。行者堂跡では今から700年前の焼き物などが出土し、鎌倉時代には建物が建っていたことがわかりました。また六角堂跡では、新たに建物の基壇が発見されるなど当時の姿が明らかになりました。



写真左：六角堂跡を正面からみたところ 写真右：在りし日の六角堂（『中道町史』1975 中道町役場発行より）

古代からの信仰の山

なえしきさんさんちょういせき

(**蕪崎市旭町上条南割**)

苗敷山山頂遺跡



写真上：苗敷山穂見神社奥宮 写真下：発掘調査の様子

苗敷山は甲府盆地の北西に位置し、標高は 1,032m です。古代にはこの山に仙人が住んでいましたが、山頂には水がなかったので池をつくり、穀物を植えたという伝説があります。この仙人の伝説から、穀物が豊かに実ることを願って山頂に穂見神社が祀られ、付属するお寺として宝生寺が建立されるなど、古くから信仰の対象となってきました。

苗敷山山頂遺跡では、平成 13 年度には蕪崎市教育委員会が、平成 18 年度には埋蔵文化財センターが発掘調査をおこない、今から約 1,000 年前の堅穴住居跡や祭祀遺構などが発見されました。このような調査成果から苗敷山の信仰が平安時代中頃から始まったことがわかります。しかしこれに続く中世の痕跡は現在のところ発見されておらず、時代によってどのように信仰の場が変遷していくのか、なお引き続き調査をおこなっていかねばなりません。



祭祀の場で出土した墨書土器

武田氏ゆかりの寺

(**南アルプス市鮎沢**)

こちょうせんじ

古長禅寺

古長禅寺は、1316(正和 5)年に夢窓疎石という高い位の僧によって建てられたと伝えられる寺院です。その後武田信玄の母である大井夫人が深く帰依し、菩提寺となりました。

平成 18 年度には、現在の本堂・庫裏の北側で発掘調査をおこない、かつてここに、東西約 41.25m、南北約 14.80mの大きな建物があったことがわかりました。またこの建物のすぐ西側にも建物の跡があり、かつては現在より大きな規模の寺院であったと考えられます。



大井夫人の墓と伝えられる石塔



写真上：発掘調査で見つかった建物の跡



埋蔵文化財センターからのお知らせ



平成18年度 埋蔵文化財シンポジウム

堤防今昔 —治水技術の先進地やまなし—

日時 平成19年2月24日(土) 13:00~17:00(開場12:30)

場所 甲府市社会教育センター 大ホール
(甲府市丸の内一丁目12-1 TEL055-232-3655)

講演 「全国の堤防遺跡と山梨の治水技術」

帝京大学山梨文化財研究所 畑 大介

「山梨県の堤防遺跡の分布」—分布調査の成果から—

山梨県埋蔵文化財センター 保坂康夫

「発掘調査でわかった堤防」—釜無川・御勅使川を中心に—

南アルプス市教育委員会 田中大輔

「富士川における歴史的治水施設の水利学的評価」

山梨大学大学院医学工学総合研究部 砂田憲吾



国指定史跡 将棋頭
(南アルプス市)

主な参加遺跡

- ・女夫石遺跡 (韮崎市)
 - ・天神堂遺跡 (甲州市)
 - ・万寿森古墳 (甲府市)
 - ・甲府城下町遺跡 (甲府市)
- ほか多数

山梨県埋蔵文化財センターや市町村教育委員会が平成18年度におこなった発掘調査の速報展を開催します。貴重な出土品が一堂に会します。



天神堂遺跡(甲州市)の土器

山梨の遺跡展2007

会期 平成19年3月17日(土)~4月8日(日)

場所 考古博物館 多目的室

2007(平成18)年度下半期

遺跡調査発表会のお知らせ

山梨県内で発掘調査された遺跡の中から、特に注目を集めた遺跡をスライド等の映写を交えながらわかりやすく説明します。また出土品の展示もおこないます。

日時 2007年3月17日(土) 13:00~16:30

会場 帝京大学山梨文化財研究所
(笛吹市石和町四日市場1566 TEL 055-263-6441)

発表遺跡

- ・「女夫石遺跡」(韮崎市)・「天神堂遺跡」(甲州市)・「甲府城下町遺跡」(甲府市)
- ・「野牛島・西ノ久保遺跡」(南アルプス市)・「苗敷山山頂遺跡」(韮崎市)・ほか1報告

市町村担当者研修会を開催しました

平成19年2月9日(金)に、東北芸術工科大学大学院の宮本長二郎教授をお招きし、「柱穴と上屋構造との関係—柱穴の調査方法ととらえ方—」の講演がありました。当日は市町村文化財担当者を中心に約40名の参加がありました。

編集後記

暖冬であるせいか、春の訪れが早く感じられます。今回は平成16年度から5年計画でスタートした山梨県内中世寺院分布調査の調査速報をお届けしました。いずれも限られた面積での発掘調査ですが、山梨県の中世寺院の姿が多方面から映し出されています。来年度はいよいよ郡内の調査を開始します。ご期待下さい。

山梨県埋蔵文化財センター 埋文やまなし 第26号

発行日 2007年2月23日
編集 山梨県埋蔵文化財センター
発行 〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923
Tel 055-266-3016 Fax 055-266-3882
印刷 株式会社 峽南堂印刷所

